

水がもたらす災害と恩恵を学習する防災啓発リーフレット

Leaflet for Learning Water-Related Natural Disaster and Blessing

○藤本 一雄¹, 坂本 尚史¹, 細川 正清², 狩野 勉¹, 木村 栄宏¹, 室井 房治¹
 Kazuo FUJIMOTO¹, Takabumi SAKAMOTO¹, Masakiyo HOSOKAWA²,
 Tsutomu KARINO¹, Hidehiro KIMURA¹, and Fusaji MUROI¹

¹ 千葉科学大学 危機管理学部

Faculty of Risk and Crisis Management, Chiba Institute of Science

² 千葉科学大学 薬学部

Faculty of Pharmacy, Chiba Institute of Science

In this study, we proposed and created new leaflet for increasing disaster prevention awareness in which focus on two characteristics of natural disaster and blessing while visiting 14 sites on water-related natural disasters (tsunami, maritime accident, and flooding) in Choshi city, Chiba prefecture. The sites are Hamaguchi Goryou Monument, Riverside Park, Bronze Statue of Hamaguchi Kichibei, Iinuma Kannon, Senninduka, Choshi Port, Kimigahama Beach, Inubosaki Lighthouse, Tokai Shrine, Tokawa Port, Byoubugaura Cliffs and so on.

Keywords : disaster prevention awareness, disaster and blessing, tsunami, maritime accident, flooding, Choshi city

1. はじめに

防災教育に取り組む上で、自然には「恩恵」と「災害」の二面性があり、地域の先人たちが「災害」と闘ってきた事実だけでなく、地域の自然環境から日常的にさまざまな「恩恵」を受けてきた事実を知ることが、地域への愛着や誇りを育成することにつながるなどの指摘がある¹⁾。千葉県銚子市(図 1)は、関東の最東端に位置し、その東と南は太平洋に面しており、その北には利根川が流れており、三方を「水」に囲まれている。このような自然環境を活かして、銚子の先人たちは、太平洋・利根川から多大な「恩恵」を得ることによって繁栄と発展を遂げてきた一方で、津波や海難事故などの「災害」と闘ってきた歴史もある²⁾。そこで、銚子市内の「水」に関連する名所・史跡を巡りながら、水がもたらす災害と恩恵について学習することを目的とした防災啓発用のリーフレットを作成したので報告する。

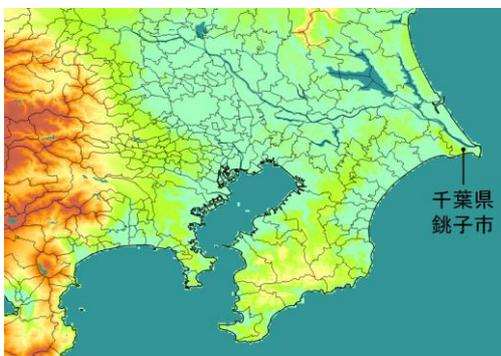


図 1 千葉県銚子市の位置

2. 銚子市における水の災害と恩恵

以下では、銚子市内の名所・旧跡と水に関する災害(津波、海難事故、洪水)との関連性について、文献^{3), 4)}などを参考にして調べた結果を述べる。

(1) 銚子の津波

・津波防災の分野で有名な「稲むらの火」の逸話(1854年安政南海地震の津波の際、紀州の広村(現・和歌山県広川町)での住民避難とその後の堤防建設)のモデルである濱口梧陵(1820~1885年)は、1645年に銚子で創業したヤマサ醤油(現在も本社は銚子市)の第7代の当主である。梧陵の死後、その功績を顕彰する【濱口梧陵紀徳碑】が銚子に1897年に建立された。

・709年に創建された【渡海神社】は、後年、津波で被害を受けたため976年に現在地(標高約40m)に高地移転した。また、堀河天皇の頃に銚子沖で発生した大津波の被害を鎮めるため、勅命により1102年に御神幸祭が始められ、「銚子大神幸祭」として現在まで約900年も続けられている(最初の10年間は1年に1度、その後は20年に1度開催されている)。現在、この神社の境内には「極相林」(形成されるまでに数百年から千年かかる)があり、千葉県の天然記念物に指定されている。

・1677年の延宝地震の津波では、【君ヶ浜】のあたりで「高神村大池まで浪上がり浜通り御林、松一万本余折れ」との記述が『玄蕃先代集』に残されている。東日本大震災後の調査・研究によれば、このときの津波の高さは約17m(遡上高は最大20m)と推定されている。一方、君ヶ浜は、白砂青松の海岸で、「関東舞子」の愛称で文人墨客に愛され、1996年には「日本の渚百選」にも選ばれている。

・紀州出身の崎山治郎右衛門が、1658年に銚子に来て、築港を開始した【外川漁港】は、「外川千軒大繁盛」と呼ばれるほど繁盛した。しかし、その後、「むかしは家が数千軒あった漁場であるが、今から七・八十年前に、津波のため、家を流されてなくなってしまったのだが、現在ではまた、家が数多く出来て大漁場となった」との記述が『利根川図志』(1855年)に残されている。

(2) 銚子の海難事故

・利根川の河口に位置する銚子は、「阿波の鳴門か銚子の川口、伊良湖渡合が恐ろしや」と言われた日本の海の三大

難所の一つであった。近世以降、多数の海難事故が発生しており、その犠牲者を慰霊する場所として【千人塚】がある。現在でも、慰霊と供養のための行事「川施餓鬼」が毎年1回行われている。

・1910年3月、銚子沖での暴風雪により、出漁中の漁船が遭難し、300人以上の漁夫が溺死・行方不明となった。海難遺族からの訴えに心を動かされた濱口吉兵衛(ヒゲタ醤油の初代社長)は、漁港を整備することを決意して、衆議院議員に立候補・当選し、1925年から【銚子漁港】の整備事業が開始された。その功績を讃えて【濱口吉兵衛の銅像】が1937年に建立された。【銚子漁港】は、日本の三大漁港の一つで、水揚げ量は2011年から5年連続で全国1位である。

・その他にも、海難事故の犠牲者を慰霊する史跡として、【美加保丸遭難の碑】(1868年の戊辰戦争の際、榎本武揚が率いる旧幕府軍の艦隊8隻が江戸から函館に向かう途中で暴風雪に遭い、そのうち美加保丸が座礁・沈没して13名が死亡)、【涙痕の碑】(1917年、【君ヶ浜】で遊泳中の青年詩人2人が大波に襲われて溺死)がある。

・1874年、イギリス人のお雇い外国人プラントンが設計・監督した【犬吠埼灯台】は、現在もほぼ建設当時のままの姿で海の安全を守っている。1998年には「世界灯台100選」にも選ばれた。

(3) 銚子の洪水(水害)・その他

・【河岸公園】は、銚子大橋を間近に望める利根川の河口近くにある。利根川は、江戸時代までは、現在の東京湾に注いでいた。徳川家康は、江戸を水害から守ることを目的として、1594年、利根川の流路を銚子に付け替える「利根川東遷事業」を指示し、1654年に工事が完了

した。これにより、銚子から江戸へと至る水運のルートが確保され、江戸と東北地方を結ぶ物流路の中継地点として銚子は繁盛した。

・1872年、オランダ人のお雇い外国人リンドは、利根川等の河川整備のための水位表記の基となる日本初の水準原標石を【飯沼観音】の境内に設置し、「日本水位尺」(J.P.)と名付けた。2015年には「土木遺産」に認定された。
・銚子市潮見町から旭市刑部岬まで続く、長さ約10km、高さ約40~60mの【屏風ヶ浦】は、海の波により浸食され、有史以降にかぎっても海岸線が2~3kmも後退したと言われている。現在は、消波ブロックなどを設置して、浸食の防止が図られている。2016年には国の名勝及び天然記念物に指定された。

3. 防災啓発リーフレットの作成

以上の通り、銚子市内には、水に関する災害(津波、海難事故など)と闘ってきた歴史とともに、水(太平洋、利根川など)から多大な恩恵を得て繁栄・発展してきた歴史にまつわる名所・史跡が多数存在している。そこで、銚子市の産官学民の有志で構成される「防災まちおこし研究会」のメンバー(筆者らを含む)で議論をして、市民が防災活動に取り組むためのきっかけとして、これらの情報をコンパクトにまとめた防災啓発用のリーフレットを作成することとした。

そこで、銚子の水の災害(防災)に関連する名所・史跡として、【濱口梧陵紀徳碑】【河岸公園】【濱口吉兵衛の銅像】【飯沼観音】【千人塚】【銚子漁港】【美加保丸遭難の碑】【君ヶ浜】【涙痕の碑】【犬吠埼灯台】【外川漁港】【渡海神社】【千葉科学大学】【屏風ヶ浦】



図2 水がもたらす災害と恩恵を学習する防災啓発リーフレット

⑪ 外川漁港

紀州出身の**崎山治郎右衛門**は、1658年に銚子に来て、外川浦で築港を開始するとともに、碁盤目状のまちづくりを行い、外川のまちは「**外川千軒大繁盛**」と言われるほどに栄えました。しかし、その後、「むかしは家が数千軒あった漁場であるが、今から七・八十年前に、津波のため、家を流されてなくなってしまったのだが、現在ではまた、家が数多く出来て大漁場となった」との記述が『利根川図志』(1855年)に残っていることから、江戸時代に**津波**によって大きな被害を受けたようです。近年では、1960年5月24日未明に**チリ地震津波**が太平洋沿岸を襲い、外川漁港でも犠牲者が出ています。このときの津波は、「**遠地津波**」に分類されるタイプで、日本から遠く離れた南米チリで発生した地震による津波が約23時間をかけて押し寄せました。地震の揺れを感じなくても、大きな津波が襲って来る場合があることを忘れずに。



外川漁港

⑫ 渡海神社

709年に東海鎮護と銚子半島の鎮めとして、外川浦日和(外川町の大杉神社の付近)に創建されました。後年、**津波**で被害を受けて、976年に現在の場所(海拔約40m)に**高地移転**したと言われています。その後、1102年に銚子高神の高見の浦一帯で**大津波**が起こり、この天変地異の様子が海神の怒りとなって遠く京都まで伝えられました。そこで、堀河天皇は、この災害を鎮めるために勅命を発し、銚子への御神幸祭(**銚子大神幸祭**)が始まりました。神幸祭は、1110年までは毎年行われていましたが、その後は20年に一度行われ、現在まで約900年も続いています。渡海神社は、神幸祭での外川浜への渡御の前日の宿泊社となっています。

神社境内の鬱蒼とした森林は「**極相林**」と呼ばれています。極相林とは、裸地から森林が形成される過程での最終段階の状態に達した森林のことです。このような森林が出来上がるには、数百年から千年かかると言われており、**千葉県**の**天然記念物**に指定されています。これからも、地域の自然を守っていくとともに、災害の歴史を忘れずに後世に伝えていくことが大切です。



渡海神社と極相林

大神幸祭

図3 解説文の例

の計14地点を選定した。この地点数は、まち歩きのコース・マップを作成する場合、10~15の解説文(名所・史跡)が標準である⁵⁾ことを参考にした。

各地点について、600字程度までの解説文を執筆するとともに、当該地点に関連する写真1~2枚を掲載することとした。また、各解説文については、文中において「恩恵」に関連する箇所(自然、歴史・文化、産業、人物)を青字で、「災害」に関連する箇所(災害・事故、防災)を赤字で強調するとともに、文末には「メッセージ」を太字で記載することとした。

以上の方針に基づいて作成した防災啓発リーフレットを図2に示す。また、解説文の例を図3に示す。リーフレットの標題は、文献6)を参考にして、「銚子・水とともに生きる一太平洋・利根川がもたらした恩恵と災害一」とし、サイズはA4判の観音折り(8ページ)である。

4. 名所・史跡に対する市民・高校生の認知度

防災啓発リーフレットで取り上げた14地点について、その認知度を知らため、市民・高校生を対象とするアンケート調査を行った。市民の認知度に関しては、銚子市・千葉科学大学・NHK千葉放送局の共催による防災イベント「銚子ぼうさい教室」(日時:2016年2月14日、場所:千葉科学大学)において、屋内イベント「市民シンポジウム」の参加者に対してアンケート調査を行い、計120名から回答を得た(写真1)。回答者の年齢構成は、10代以下が8%、20・30代が16%、40・50代が33%、60代以上が43%である。高校生の認知度に関しては、千葉県立銚子高等学校1年生161名に対するアンケート調査を2015



写真1 「銚子ぼうさい教室」の市民シンポジウム

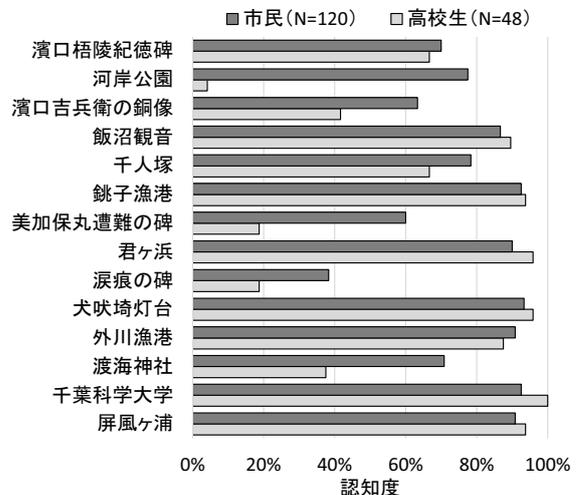


図4 名所・史跡に対する市民・高校生の認知度

年 12 月に実施して、そのうち銚子市在住の 48 名の回答を用いることとした。図 4 に 14 地点の名所・史跡に対する市民・高校生の認知度を示す。

【犬吠埼灯台】【銚子漁港】【君ヶ浜】【屏風ヶ浦】
【外川漁港】の認知度は、市民・高校生ともに高い値を示している。一方、【涙痕の碑】【美加保丸遭難の碑】
【河岸公園】【濱口吉兵衛の銅像】【渡海神社】の認知度は、相対的に低く、特に高校生の認知度は市民のそのの半分程度ないしそれ以下にとどまっている。この結果から、今後、地域の若い世代(児童・生徒)を対象として、本リーフレットを用いた防災教育・啓発活動に取り組むことにより、早い時期から、地域の名所・史跡が有する潜在的な価値に気付くとともに、防災意識の向上と地域に対する愛着・誇りの育成につながることを期待できる。

5. 名所・史跡の観光パンフレットへの掲載状況

今後の参考のため、14 地点の名所・史跡について、市内で配布されている観光パンフレットへの掲載状況を調べた。収集した観光パンフレットは、銚子市の「銚子市観光マップ 銚子散歩」(資料 A)、銚子市観光協会の「地球の丸く見えるまち銚子」(資料 B)、地球の丸く見える丘展望館のパンフレット(資料 C)、銚子ポートタワー・ウオッセ 21 のパンフレット(資料 D)、銚子ジオパーク推進協議会の「銚子ジオパークガイドマップ」(資料 E)の計 5 種類である。表 1 に名所・史跡の観光パンフレットへの掲載状況を示す。△印は名称のみが記載されていた地点であり、○印は解説文も掲載されていた地点である。

表 1 を見ると、前述の市民・高校生の認知度が高かった【犬吠埼灯台】【屏風ヶ浦】【銚子漁港】【外川漁港】【君ヶ浜】は、すべてのパンフレットに掲載されている。これに対して、認知度が低かった【濱口吉兵衛の銅像】【美加保丸遭難の碑】【涙痕の碑】や【濱口梧陵紀徳碑】【千人塚】は、ほとんど掲載されていないことがわかる。また、表 1 の網掛け部分は、解説文の中に「災害」に関する記述を含むものを示しているが、かなり少ないことがわかる。近年、「ダークツーリズム」と呼ばれる戦争や災害をはじめとする人類の悲しみの記憶をめぐる旅が注目されている⁷⁾。本研究において、銚子市には、水の「恩恵」に関する名所・史跡だけでなく、水の「災害」に関する名所・史跡も多数存在することを確認できたため、今後は、防災教育・啓発活動だけでなく、ダークツーリズムと関連させたニューツーリズムを展開できる可能性も考えられる。

表 1 名所・史跡の観光パンフへの掲載状況

	資料A	資料B	資料C	資料D	資料E
濱口梧陵紀徳碑	△				
河岸公園	○	△	○		○
濱口吉兵衛の銅像	△				
飯沼観音	○	△	○		△
千人塚	○				○
銚子漁港	○	○	△	△	○
美加保丸遭難の碑	△				
君ヶ浜	○	△	○	△	△
涙痕の碑	○				
犬吠埼灯台	○	○	○	△	○
外川漁港	○	△	○	△	○
渡海神社	○	△	△		○
千葉科学大学	△	△	○		△
屏風ヶ浦	○	○	○	△	○

○:名称+文章(網掛け:災害(防災)に関する文章あり), △:名称のみ

6. まとめ

本研究では、まず、千葉県銚子市には、水(太平洋, 利根川など)から多大な恩恵を得て繁栄・発展してきた歴史に関する名所・史跡だけでなく、水に関する災害(津波, 海難事故など)と闘ってきた歴史にまつわる名所・史跡も多数存在することを確認した。

これを踏まえて、銚子市内の 14 地点(濱口梧陵紀徳碑, 河岸公園, 濱口吉兵衛の銅像, 飯沼観音, 千人塚, 銚子漁港, 美加保丸遭難の碑, 君ヶ浜, 涙痕の碑, 犬吠埼灯台, 外川漁港, 渡海神社, 千葉科学大学, 屏風ヶ浦)の名所・史跡を巡りながら、水がもたらす災害と恩恵について学習することを目的とした防災啓発用のリーフレットを作成した。

これらの名所・史跡に対する市民・高校生の認知度を調査したところ、市民に比べて高校生の認知度が極めて低い地点があったことから、今後は、地域の若い世代(児童・生徒)を対象として、本リーフレットを用いた防災教育・啓発活動に取り組むことにより、早い時期から、地域の名所・史跡が有する潜在的な価値に気付くとともに、防災意識の向上と地域に対する愛着・誇りの育成につながる可能性について指摘した。

謝辞

本研究では、著者ら以外の「防災まちおこし研究会」メンバー(銚子市役所:春山敏郎氏, 笠上寛行氏, 千葉県立銚子高等学校:田口康博氏, 銚子青年会議所:岩瀬直之氏, 犬吠埼プラントン会:仲田博史氏, 犬吠埼ホテル:梅津佳弘氏)からも研究全般にわたり多大なるご協力をいただいた。広川町教育委員会, 海上山妙福寺などの関係各位から写真をご提供いただいた。防災啓発リーフレットの表紙ロゴデザインでは、千葉県立銚子高等学校の永井亜依氏にご協力をいただいた。記して謝意を表す次第である。

参考文献

- 1) 藤岡達也:地域・家庭と協働した防災教育・防災訓練にどう取り組むか, 教職研修, pp.28-31, 2011.
- 2) 三好勝博:銚子市における自然の恩恵と災害を学ぶための地域学習コースの提案, 千葉科学大学卒業論文, 2014.
- 3) 稲葉 豊和編:とっておき, 銚子散歩—銚子を愛する人のためのハンドブック, アクセス出版, 2005.
- 4) 篠崎四郎編:銚子市史, 国書刊行会, 1981.
- 5) 茶谷幸治:「まち歩き」をしかける—コミュニティ・ツーリズムの手ほどき, 学芸出版社, 2012.
- 6) 宇井忠英:火山のハザードマップ:火山災害の軽減に向けた課題を探る, 災害情報, No.13, pp.2-7, 2015.
- 7) 井出 明:ダークツーリズムとは何か?, DARK tourism JAPAN, Vol.1, 大洋図書, pp.2-9, 2015.